

2026年度広島市立大学 総合型選抜
(国際学部)

小 論 文 (60分)

2025年10月18日

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は4ページあります。

試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

- 3 解答用紙は2枚です。解答はすべて解答用紙の所定の場所に記入しなさい。
- 4 下書用紙は2枚です。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の所定の欄に必ず記入しなさい。
- 6 解答用紙は試験室から持ち出してはいけません。
- 7 解答用紙は試験終了後に回収します。
- 8 問題冊子および下書用紙は、試験終了後持ち帰りなさい。

このページは空白である。

問題

以下の課題文 A および課題文 B を読み、あとの問いに答えなさい。

【課題文 A】

たまに大学で授業を持つことがある。学生たちの声をききとりながら、ともに考える授業をするのが好きで、授業が開始される瞬間まで、今日の内容が決まっていないうようなことも多い。

教育学科のひとが多くあつまる授業で、わたしたちは教育とは何なのかという難問に頭を悩ませていた。学生の何人かが、授業後のリアクションペーパーや、授業中の発言でも「役に立つ学び」という言葉を使っていた。

「役に立つ」。おそろしい言葉だ。うれしく切実な響きをもつときもあれば、軽々しく使われ、誰かを傷つけて厭（いと）わない言葉でもある。知人の編集者が、役に立つことに還元してしまおうとすることを「トーマス症候群」と呼んでいた。「機関車トーマスって、すぐに役に立とうとするんです」。たしかにそうかもしれない。

哲学は役に立たないとよく言われる。それに対して、役に立たなくても大事なものがあると言うこともできるし、役に立たないものこそ大切と言ってみたり、あるいは哲学はとても役に立つのだと説明してみることもできる。でも、そうなのかなあと、どこかで思っている。ちなみに「哲学は役に立つということ自体を問い直せるのです」という返しが、大学時代哲学科の一部で流行したことがあった。正月など親戚が集まった場で、哲学が役に立つのかと問われたときに、咄嗟（とっさ）に返すといい言葉として共有されたのだった。今思えば、問うた側は、それで納得するとはあまり思えないのだが、どうだろうか。

そんな中、授業のリアクションペーパーで、ひとりの学生がこんなふうに書いていた。「指標としてわかりにくい経験なるものを、良さや悪さで、ましてや『役に立つ』ことで計測してしまおうとする感覚がとても苦手です。僕は浪人も休学もしていますが、それを役に立つ経験として消化してしまいたくないです。全くの役に立たないこともたくさんしてきたし、それが自分にとってどんな意味をもつかを確かめたいわけでもないです。そんなに速度をもって意味づけをしたいわけじゃないです」

わたしはこの文を読むと、なぜだかいつも涙がこぼれる。「生きる意味って、そもそもなんだろう」と、かれはつづけて書いている。そしてこの文は「何もしないで死んでいったら、それは教育の失敗なのだろうか？」という問いで締めくくられていた。

わたしは、かれにこんなことを書かせる社会とは、一体何なのだろうかと考える。役に立つとか、立たないとか、そのどっちに価値があるとか、そもそもそういうことなのだろうか。その指標とは、誰によって、なぜ、大事とされているのだろうか。

「教育」という言葉の前に立つと、焦りが生じてくる。何か意味のあることを、役に立つこ

とを、力になることを。最初は感じていたかすかな違和感や「問い」は、焦りの中で意図的にか、無意識的にか、忘れ去られる。

「役に立つ」という指標以外のものを、わたしたちはもっと探してもいいのではないか。「役に立つ」という言葉ではない言葉も、もしかすると探せるのではないか。たえず言葉は逃げていくだろう。それでも、あの学生の叫びを受け取ってしまったいま、わたしたち大人にできることがあるのではないかと思わざるを得ない。

出典：永井玲衣「役に立つとは」『日本経済新聞』夕刊（2025年2月20日）。必要に応じて表記等を変えている。

【課題文B】

細く長く売れていた本がSNSでバズり、大きなヒットになる例が目立っている。書籍の魅力が新たな文脈で再発見され、多くの読者が手に取るきっかけとなっているようだ。

シンガー・ソングライターの米津玄師さんは、2月初め公開のインタビュー記事で『教養主義の没落』（中公新書）を「べらぼうに面白かった」と語った。大正期に旧制高校で興った教養主義の実態とその後の変遷、1970年代以降に衰退した背景を追う本だ。2003年に刊行し、24年6月時点で16刷6万4500部を発行するロングセラーだった。

記事公開後にSNSで話題になり、注文が殺到した。3月15日までに新たに3回重版し3万部を発行。電子書籍も2週間で約2300ダウンロードと「桁違い、異例の数」（中公新書編集部長の黒田剛史さん）に上った。

著者の京都大名誉教授・竹内洋さんは「米津さんのことは歌詞の言葉が斬新で知っていたが、狐につままれたような気持ち」と笑う。「今の若い人は『役に立つ専門知』のプレッシャーに強くさらされている。対極にある教養、しかも（大正期のような）かつてのエリート主義的なものではなく、もっと柔らかな教養を模索しているのでは」とみる。今後は気鋭の文芸評論家・三宅香帆さんによる推薦帯を付け、若者への訴求をさらに強める。

〔後略〕

出典：西原幹喜「米津玄師が推し 魅力再発見、バズるロングセラー」『日本経済新聞』朝刊（2025年3月22日）。必要に応じて表記等を変えている。
日本経済新聞社 許諾番号 30106009 無断で複写・転載を禁じる。

問 課題文Aで述べられている「役に立つ」ということについてのあなたの理解を示したうえで、課題文Bで言及されている「教養」の意義についてのあなたの考えを、700字以内で述べなさい。